
僕の恋愛

tis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の恋愛

【著者名】

N4503F

【作者略名】

tis

【あらすじ】

アラタの恋愛を描いた小説です。けつして幸せばかりな話ではありません。

ヒローゲ

きっと僕には本気の恋人はできないだろ？。

僕の名前はアラタ。自分では普通の人だと思ってる。特にどこか
目立った欠点があるとも思わない。

顔も普通だと思う。カッコいいわけじゃないけども。
性格はホレっぽい。

だからこんな恋愛しか出来ないのかもしれない。

幼稚園の思い出

初恋は幼稚園の時。「冗談みたいに思えるけど、好きな子がいた。なにがきっかけとかじやなく、気になつてた。

「ゴウゴウちゃん遊びー。」一言いづらうたい。
ずっと思つてゐる。

でも、言えるわけない。だつて、みんなからかわれるし、そうなつたらきっと遊んでくれない。その前に、僕のことキレイかもしれない。

もし、キレイならそなこと知りたくないよ。

「アラタくん！遊び。」「うん！遊び。」同じ梅組のタカシくんが誘つてくれた。
「でつかいお城を作りうー。」「トンネルも！」「僕とタカシくんは砂場でお城を作るのが大好きだ。
今日の砂場の砂は昨日雨が降つたせいかすごく固い。
こんな時は水をかけると柔らかくなるんだ。
でも、うまく固まらなくなるから水は使いたくないんだけど。」「アラタくん、水持つてきたよ」「じゃあ、僕は形を作るね」

タカシくんが砂場に水をかけてくれた。

僕は一生懸命形を作つた。

一通り水をかけるとたかしくんも手伝つてくれた。
でも、やつぱりうまく固まらないな。

「固まらないね」

「トンネル掘れないね」そんな風に話しながらお城を作つたけど、

もつお城にならないから泥遊びに変わったんだ。

だって、もうドロドロに汚れたし。

お団子を一つ作ったとき、女の子のグループが教室から出でたのが見えた。

あ、コウノちゃんもいる。
こっちにこないかな。

「あ、お団子作ってるー！」

アキナちゃんはお団子作るのうまいやな。

「あたしもやりたいー！」ミシヒキちゃんがじつにつたが、コウノちゃんも一緒に来るかも。

「まーゼーーー！」

コウノちゃんと泥遊び出来るー！
「こーこーよー！」

女の子つていつか、コウノちゃんと一緒にする泥遊びってなんて楽しいんだろうー！

タカシくんと一緒にするより、ずっと楽しくて、ウキウキするー！
こんな時間がずっと続けばいいのに。

ところで、女の子つてなんできれいなお団子作るんだろーー！
きれいにまんまるになつて、どこから持つてきたのか、白い砂で周りを固めてる。

僕のぐちゃぐちゃのお団子とは大違いた。

大違といえ巴男の子と女の子はお団子作った後の遊び方。

男の子はすぐ固く作って、作った後はそれを地面に投げつけて遊ぶ。堅ければ堅いほど、地面で壊れたときの感触が足から伝わって気持ちいい。

女の子はたいがいおままで。今日も当然始まつた。「お母さんはあたしやりたいー！」

ミシヒチちゃんが眞っ赤だ。

「じゃあ、あたしが子供ね。」

「ウカウカちゃんが眞っ赤だ。」

「あたしも子供一タカシくんと、アリタケさんとハサウエー。」

「ウカウカちゃんがお母さんじやなかつたり向役でもここへ。」

「タカシくんはお父さんじやつて。アラタくんは子供役ね。」

ミシヒチちゃんがこつた。

本郷はウカウカちゃんお父さんじやお母さんじや皮をやつたかったな。

「じゃあ、はじめねよ。」

「ただこま。」

「お帰りなれ。」

「お風呂にかるへ。」

「じやあ、」

「子供たちは帰つてないのか?」

おまめいじは楽しけ。

家ではお父さんじやお母さんじやこんな余話せしない。

みんなの家でせりんな余話してゐるのかな。

「お父さん、お帰りなれ。」

「お帰つ~!」

ウカウカちゃんが、一番上のお姉かわん役で、アキナおやじが一番

下の妹、僕はそれにはれられた真ん中だ。

おまめいじは、意外とみんな役になつたのはわかるから、ウカ

ウカちゃんがみんなの面倒を見てくれた。

しまつた。もし、僕が一番上のお兄ちやんになつてくれれば、ウカウ

ちゃんのお世話をされた。

「三人ともいじ飯よ。」

なぜか、ミシヒチちゃんのお母さんじやお母さんみたこな眞

持ちになる。

地面は、「御所」とかこころの場所は、やつやの公園子が並べら

れた。

「ミシエちゃんのところには、ミシエちゃんの、タカシくんのところにはタカシくんのお団子が並べられた。

「の調子だと、あの汚いお団子は僕のところに並べられる。よかつた。コウコちゃんにあんなきたないお団子並べられたくないもんな。

でも、お母さんは僕のところにアキナちゃんが作ったお団子を、
ユウコちゃんには僕が作ったお団子を、アキナちゃんにはユウコち
ゃんが作ったお団子を並べた。

され 話が作 たのう

「あたし、こんなのはいってないもん！」

僕のお団子は女の子から嫌われた。
当然だ。
僕だってこんなのが食

へたくなしもん

卷之三

卷之三

業のお因子が、懲がつたの? でも、お因子が二つある!

んなのに。

ハセガワ

父カジくんは僕が落ち込んでるの毎一いちのがな

「うーってタカシくんはまた水を汲みに行つてくれた。

初恋の続き

僕は小学校に上がった。

といつても、校舎は同じ敷地にあるので通り距離にせよど変わりはなかつた。

幼稚園と一緒に通つていたクラスメートに他の保育所から数人加わつただけでそれほど変わつた事はない。

もちろん、ユウコちゃんへの恋心も変わらなかつた。

そして、小学校5年生の秋のこと。

今日は、冬にある学習発表会である劇のことを話し合つた。

もうやる劇は決まつていたので後は役を決めるだけになつていて。僕は、主人公はやりたくない。

だって、セリフが多い。
めんどくさい。

先生が教卓に立つた。

「今日は劇の役を決めます。全部立候補で決めるからどんどん手を上げてね！」

誰があげるか！

僕はあまつた役でいいや。

台本は全部読んである。

前半は主人公と奥さんと子供の3人だけしか出ない。

ということは、セリフが多いってことじゃん！

「じゃあ、奥さんはユウコちゃんに決定します。はい、拍手…」
え！

前半は3人しか出ない。ということはユウコちゃんと一緒に劇が出来るじゃん…！

「次は前半の主人公を決めます、

次々に手があがる。

どうやら、これが競争率つてやつなんだろ？
僕も当然手をあげた。

ちょっと前と考えてることが違つて？

だつてこんな機会もうないよ。

「主人公は人数が多いね。じゃあ、みんなでセリフを読んでよかつた人に決めましょう。」

みんなは一生懸命セリフを読んでいる。

僕の番になつた。

ユウコちゃんと一緒に劇が出来る！

僕は一生懸命セリフを読んだ。

読んでみてわかつたけど、この主人公は何もしてないのに殿様に人柱にされるかわいそうな村人。
そう思つたら余計にセリフに力が入つた。

「アラタくんがいいと思います。」
「僕もそう思います。」
「私もそう思います。」

先生は、考えるまでもなく
「アラタくんに前半の主人公をやつてもらいます。」
と言つた。

やつた！これでユウコちゃんといつしょだー！

練習中は緊張しつぱなしだつた。

子供役にはサヤカちゃん。

せめて男の子にして欲しかつた。

女の子とろくに話したことがないのに、この状況は辛い。

「えつと・・、練習しようか。」

ユウコちゃんが僕を促した。

「うん。」

今の僕には「うううのが精一杯。

練習してると本当にこの主人公がかわいそうになつてくる。
病気の子供がいるのに、奥さんを残して人柱にされるなんて。
コウ「ちゃんは主人公のことどう思つてるんだろ?」

僕はうまく練習ができなかつた。

人柱にされる時、奥さんに「俺はどうすればいいんだ!」と、肩を持つて奥さんに詰め寄るシーンがある。

・・無理。

一度先生がやつてきて「コレくらい肩を持つて!」といつてコウ「ちゃんの両肩を持たされた。

僕は真つ赤になつてしまつた。

「コレくらいやりなさい。」

といつて、先生は笑いながら去つていつた。

絶対楽しんでる。

それ以来僕はなんとか片手でコウ「ちゃんのかたを持てるようになつた。

それにしても、本当にコウ「ちゃんと一緒にいれるなんて夢のようだ。

でも、それも明日まで。

明日が終わつたらきっと今までと変わらない毎日が始まるんだろう。

う。

いやだな。

本番आ।。

僕は一番の出来だつた。

と思「。

正直覚えてない。

たくさん観客がいる中でコウ「ちゃん」と戯をしたんだ。
緊張しつぱなしだった。

練習から楽しかつたけど、緊張のほうが多い毎日だつたな。

墨口から始め、今まどと回じ毎日が始めるんだね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4503f/>

僕の恋愛

2010年12月31日02時34分発行